

地質ニュース

昭和56年9月 第325号 1981

石油地下貯蔵技術(その2) ヨーロッパにおける廃坑備蓄の現況	星野一男	6
タイ国の地熱エネルギー資源	高島勲 河田清	16
α トラック法による活断層探査と その連続観測による地震予知	加藤完	30
「人形峠ウラン鉱床露頭発見の地」 記念碑建立にちなんで	高瀬博	46
地名の標準化について	池田稔	48
昭和56年度から始まる所内特別研究	企画室	57
地質ニュースと共に30年 高橋博氏退官される	総務部業務課	60
学会案内	日本地下水学会	60
RBVカメラによる全世界陸域撮像計画	松野久也	61
地質標本館だより 地質調査所の創設と変遷	今井功	62
〃 人間は地球の姿をどのように とらえてきたか	今井功	63
〃 日本列島大型地質模型	山田直利 今井田尚	64
相 沼 AINUMA (5万分の1 図幅)	沢村考之助 秦光男	66

口 絵	ヨーロッパの石油備蓄岩盤	星野一男
-----	--------------	------

編集 地質調査所

表紙の写真

石油地下備蓄実験空洞

岩盤内に大空洞を掘削し、石油を貯蔵する技術は欧米諸国で実施されているが、我が国では未経験の技術である。欧米諸国の石油備蓄岩盤は先カンブリア紀など地質時代の古い堅硬な岩石か、あるいは岩塩、石灰岩など可塑性の炭酸塩岩層であるが、いずれも不幸にして我が国にはほとんど存在しない。我が国でこの種の計画を進めるためには、欧米諸国で開発された技術を、我が国特有の岩盤条件、地質構造に対応するように研究しなければならない。この目的のために資源エネルギー庁では愛媛県菊間町周辺に発達する花崗岩質岩盤を実験サイトとして、昭和55年度より大規模な実証実験を行っている。この計画では地表下50—70mに断面15×20m、長さ約100mのトンネル型空洞を掘削したのち、この空洞に石油(原油)を入れて各種の観測・実験を行い、石油地下備蓄技術の有効性・安全性などを確かめることになっている。本写真は8割ほど掘削工事が進行した時点での掘削現場の写真である。(潜水・鹿島・大成・日揮共同企業体提供。なお本写真の公表を許可された資源エネルギー庁、石油公団に感謝する)

(文 星野 一男)

発行 株式会社 実業公報社